

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第109号

nanae historical
museum collection



ななえ古写真物語

VOL. 109

大中山駅のはじまり

村民による駅舎

昭和50年代？

大中山駅

当館に、一枚の棟札が保管され、そこには、こんな墨書きが残されている。

「奉齊 大中山駅壹棟 願主 大中山村民一同 屋船久々能智神 手置帆負神 屋船豊受姫神 彦狭知神」そして裏には「請負者 瀬崎初三郎 棟領 大淵富士太郎 上棟祭昭和二十一年十一月二十一日執行 齊主 水嶋義夫」いわゆるがな大中山駅を建てた時に設置されたものである。

大中山駅のはじまりは、思いのほか遅く、太平洋戦争終戦の翌年、まだ食糧や物資が不足している頃である。大中山村あげて設置への機運が高まり、敷地の寄附から駅舎一切の工事には、村民総動員で協力し合い、竣工からわずか一カ月足らずで、臨時乗降場として開業するに至った。

この時の様子は、「大中山村誌」に詳しく記されており、相談役を筆頭に、工事は土木工事、ホーム・炭、用材、電燈、総務などの係に分業し、昭和21年11月10日から作業を開始した。大中山小学校実習地から土砂運搬を行った馬車は、のべ2,500台。出勤人員5,500人により駅舎・官舎・便所・物置及び石炭庫・見張小屋・井戸などを作ったという。

まさに、当時の大中山村民が一丸となり、開業した駅と言っても過言ではなく、開業当日には、大中山小学校において、村外からの来賓が100名を超える盛大な祝賀会も行われたというから、その喜びの大きさがうかがえる。このように、地域の力で作られ、始まった駅というのも、あまり例を見ないのではないか。

ところで、臨時乗降場として始まった大中山駅は、はじめ桔梗駅の管理下に入っていたが、昭和25年1月15日に一般旅客駅に昇格した。これにより、駅長が在駐するようになったからか、29年には駅長官舎が建てられたり、さらには、昭和37年に身障者厚生モデル駅指定を受け複線になったため、下りホームが作られるなど、幾度かの改修を経て現在に至っている。

上の写真は、駅舎の前に設置された電話ボックスの形状や、舗装されていない状況から、昭和50年代に撮影されたものと考えられるもので、現在の駅舎よりもやや大きい。無人駅となったことで、駅舎を縮小したのだろう。

通勤・通学など函館への移動手段として、今も多くの利用がある大中山駅。村民の願いを村民自ら叶えようと動いた熱い思いが、今も軌道の音とともに響いているようだ。

7日

夜の博物館後期講座が始まりました。テーマは考古学。第1夜は「好古学のススメ」と題し、考古学とは、どんな学問で、どのような歴史があるか、ということを見ながらお話をしました。小難しく感じる学問ですが、手に取り、眺め、思いを馳せると、「この土器どうやって作ったの?」「土偶ってカッコイイ! ステキ!」などの声が上がりました。

積み重なりから構築される考古学の講座、まだまだ熱い夜が続きそうです。



27日

年内最後のジュニア探検クラブは、「そば打ちともちつきに挑戦」です。友の会の皆さんに指導をして頂き、午前のそば打ちからスタートです。ほとんどの子がそばを打つのが初めてだったため、格闘していた様子が見られました。一方、もちつきは、意外と女子の方が力もち。そばもお餅も大切な日本の文化。手間をかけ、経験という知恵を携え、これからも伝えていきたいプログラムの一つです

特別展開催中です。

開催中の「デザインする土器」の展示は、作られた年代よりも、形の美しさや連続する文様の組み合わせなどをじっくりと観察できるように、空間を利用した展示を行っています。例えば、土器の底面に鏡を置き、普段はなかなか見られない底について模様も見る事ができます。また、土器破片に触れるコーナーや土偶のぬりえ、考古学に関する本を読めるコーナーも設置しています。多くの皆さんに、見て、触れて、感じる土器を、この冬お楽しみ頂けることを願っています。



2月の予定

1	水	夜の博物館/星空観察会
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	建国記念日
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	ジュニア探検クラブ
26	日	
27	月	
28	火	特別展最終日

2月の休館日はありません

月とサボテン

当館で育成中のサボテン、右は「満月」左は「月世界」。名が云い得て妙はどちらだと思いますか?



編集後記 ~tawagoto~

館で育てていたサンショウウオが、飼育ケースから脱走して、干からびた姿で見つかった。幼体で当館にきて後、成体となっても餌をやり続け(私ではなく、もっぱらうちの職員だが)、早いもので5年。脱走しなければ、まだ生きることができたのかと思うと、残念でならない。

いつも静かに癒しをくれたサンショウウオ、そして、欠かさず餌をやり続けた職員。どちらにも、ありがとうの気持ちでいっぱいだ。(やまだひさし)

~ピチャリ~
Richard 第109号

平成29年1月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp